

希望の言葉を語るものへと

岡 田 弥 生

希望の言葉を聞くことの少ない昨今ですが、希望の声に満ちたある一冊の本に私は出会いました。90歳を超えてなお現役の医者として使命感をもって診療に当たっておられる（関西学院名誉博士でもある）日野原重明先生と、高校時代に事故に遭い、車椅子生活の中、詩と絵で神様を賛美しておられる星野富弘さんの対談をつづった『たった一度の人生だから』（いのちのことは社、2006）です。お二人から人間の根源的な不安をも凌駕する力強い希望の言葉を聞くことができます。それはお二人の希望の根拠が、「道であり、真理であり、命である」（ヨハ14:6）キリストの言葉にあるからです。

新約聖書において、私たちに最も励ましを与えてくれるキリストの言葉の一つは「湖の上を歩く」と題される記事に描かれています（マタ14:22-33, マコ6:45-52, ヨハ6:15-21）。イエスを自分たちの王にしようと考え始めた群衆の野心に巻き込まれないように、イエスは弟子たちを先に向こう岸ペトサイダに行かせ、ご自分は祈るために山に登られた。ところが舟は逆風のために波に翻弄される。そして湖の上を歩いて弟子たちのところへ行かれるイエスを見て、弟子たちはおびえ、叫び声をあげる。それに対してイエスは「安心なさい。わたしだ。恐れることはない」（マタ14:27, マコ6:50）、「わたしだ。恐れることはない」（ヨハ6:20）と呼びかけられる。海の上を歩いて、道を作ることは、神の能力の表徴であり（ヨブ9:8, イザ43:16）、「わたしである」（エゴー・エイミ）は、神顕現の定式とされる（出3:14, イザ41:4, 43:10, 52:6）。すなわちこの記事は自己自身の力や自己の世界の力よりも大きな存在の力に根ざし、その愛と真実の故に「勇気をもって生きなさい」との私たちへのメッセージだと読み取ることができます。

今日もそれぞれの人生の大海原に漕ぎ出している私たちです。不安と憂いの尽きない現状にもかかわらず、力強く励まし支えてくださるこのキリストのお言葉に深く思いを致し、日野原先生や星野さんのように希望の言葉を語るものとされたいと願わされます。

（社会学部 言語コミュニケーション文化研究科教授）

-
- ◇ランパス早天祈祷会 毎金曜日 午前8:20～8:40 於：ランパス記念礼拝堂(上ヶ原)
4月30日(金) 神学部のために 水 野 隆 一
5月7日(金) 文学部のために 松 見 淳 子
◇総合政策学部早天祈祷会 毎木曜日 午前8:40～ 於：宗 教 主 事 室
-